

茨城大学学報

第348号

令和元年12月～令和2年1月



千葉セクション GSSP 認定「チバニアン」誕生！

INDEX

- ◆ 本学日立キャンパス正門周辺環境整備 竣工記念式典を開催
- ◆ 茨城大学台風19号災害調査団第一回報告書を公開
- ◆ 【茨城大・茨城キリスト教大・常磐大】教員養成連携協議会主催の講演・遠隔授業
- ◆ 令和元年度茨城大学学長学術表彰 表彰式及び受賞記念講演会を開催
- ◆ 本学工学科1年・森本さん、ビブリオバトルで全国大会出場
- ◆ 理学部にて第10回高校生の科学研究発表会を開催
- ◆ 「茨城大学×明治東京恋伽 春草と大観の五浦青春展」学生がアイデアを出し合い展示制作
- ◆ 市原市地層 GSSP 認定で「チバニアン」誕生 岡田教授ら安堵と喜びの記者会見
- ◆ 令和元年度後学期・学長と学生の懇談会を開催

茨城大学広報室

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 本学日立キャンパス正門周辺環境整備 竣工記念式典を開催

12月7日、創立70周年記念事業として進めてきた日立キャンパスの正門周辺環境整備の竣工記念式典を開催しました。式典には日立市副市長 吉成日出夫氏、日立商工会議所会頭 秋山光伯氏らをはじめ、工学部同窓会・後援会関係者や大学関係者等が出席しました。本整備は、日立キャンパス前の道路拡幅工事に伴って、正門周辺環境の整備を実施し、工学部の同窓会である多賀工業会を中心に2000万円を超える寄附が寄せられました。

三村信男学長は、「今回の正門周辺環境整備は、日頃お世話になっている日立市の地域・企業の皆様により開かれた大学となるよう期待を込めて実施した。学生が誇りを持って勉学に励むことができる環境づくりにこれからも努めていきたい」と式辞を述べました。

続いて日立市の吉成副市長が市長祝辞を代読し、「今年で日立市は市制施行80周年を迎える。今後『日立らしさ』により磨きをかけ、これからも茨城大学工学部の皆様と歩みを共に進めていきたい」として今後のさらなる連携に期待が示されました。

式典の中では、本学工学部都市システム工学科の平田輝満准教授が今回の環境整備事業の概要を説明。①地域に開かれた開放性のあるキャンパス、②公共空間への貢献、まちの魅力向上の2つの理念を掲げ、デザインにあたって内部で幾度も協議を重ねたことなど苦労した点を明かしました。続いて、正門横のバス停近くに設置される休憩所のデザインコンペティションで最優秀賞・優秀賞をおさめた学生の表彰を実施し、最優秀賞を受賞した大学院理工学研究科博士前期課程1年の中根央喜さんは「バス停として機能することはもちろん、地域に対して開かれていること・居場所として使用されることをコンセプトにデザインを練り上げた」と語りました。

式典終了後は同キャンパス小平記念ホールにて祝賀会が開催され、盛会のうちに幕を閉じました。



整備された日立キャンパス正門周辺の風景



デザインコンペティション・最優秀賞を受賞した中根央喜さん（写真左）

◆ 茨城大学台風19号災害調査団第一回報告書を公開

10月に発生した台風19号による災害の調査を進めている「茨城大学 令和元年度台風19号災害調査団」が12月11日、現状の調査状況をまとめた第一回報告書を公開しました。

全国各地に甚大な被害をもたらした台風19号の発生後、本学においては被災した学生・教職員・受験生への支援、災害ボランティア活動を希望する学生の支援を進めるとともに、同調査団を発足させました。調査団では「被災過程説明」「農業・生態系」「情報伝達・避難行動」「住民ケア支援」「文化財レスキュー」という5つのグループでの計画研究をスタートし、その後、学内での公募を経て、災害支援に対する自治体の情報発信、洪水に対する地域強靱化、中小企業の事業継続計画（BCP）の検証といったテーマの調査も加わり、計8テーマで進行しています。

調査団では、台風被害発生から2ヶ月の節目を前に、12月11日に第一回報告会を企画し、それにあわせて第一回報告書を発表しました。報告書では、被災過程説明グループ、文化財レスキューグループといった、短期的な被害状況の調査を通じて現時点で得られている知見や推測を紹介するとともに、中長期的な取り組みが必要な調査については今後の具体的な計画を記しています。なお、調査団では今後、2019年度内に中間報告会を、発災から1年となる2020年秋を目処に最終報告会をそれぞれ実施する予定です。



12月11日におこなわれた第一回報告会の様子

◆ 【茨城大・茨城キリスト教大・常磐大】 教員養成連携協議会主催の講演・遠隔授業

茨城大学、茨城キリスト教大学、常磐大学の3大学は、12月14日、「学びの転換と授業づくり」と題し、各大学の会場をネットワークで結び、教員養成に関わる特別授業と懇談会を実施しました。このイベントは、昨年度3大学により発足した「茨城県の教員養成に関わる連携協議会」事業の一環として、それぞれの大学で教員を目指す学生間の交流を深めるとともに、新たな学習知見についての知見を共有することを目的に企画されました。あわせて、授業づくりを中心に、児童・生徒と一緒に学び成長すること、教えることの楽しさを再確認することも狙いとしました。

本イベントは、NHK 報道局チーフ・ディレクターの興野理氏が「番組制作と授業展開の課題の可能性」と題して特別授業を展開しました。興野氏は、視聴者に興味を向けさせるため、映像や音声などに日々工夫を凝らして番組を制作していることを説明し、そうした工夫が授業づくりでも重要になるという視点を示しました。また、その後の質疑と懇談では、本学教育学部の君塚淳一教授のコーディネートのもと、興野氏と教育実習を終えた学生たち、さらにそれぞれの大学を卒業した現職教員が登壇し、意見交換をおこないました。学生・現職教員からは、自身の授業での体験例や1年を通して学級をまとめていくための取り組み・課題などが述べられました。



(講演：番組ごとに視聴者の興味を持たせる工夫について紹介する NHK 報道局チーフ・ディレクターの興野理氏 茨城大会会場)



(質疑と懇談：左から茨城大学学生の吉原氏、教員卒業生の樋口氏、NHK チーフ・ディレクターの興野氏 茨城大会会場)

◆ 令和元年度茨城大学学長学術表彰 表彰式及び受賞記念講演会を開催

12月19日、水戸キャンパスにおいて、令和元年度国立大学法人茨城大学学長学術表彰の表彰式及び受賞記念講演会を実施しました。

本表彰は、先進的又は独創的な研究を行っている研究者の特筆すべき研究成果を称え、その研究成果と研究内容を学内外に広めることによって教員の研究意欲の向上を図り、大学の研究の活性化と更なる発展を図ることを目的として実施しています。11回目の開催となる今年度は、農学部・豊田淳教授が優秀賞を受賞しました。豊田教員は、「心理社会的ストレスモデル動物の栄養・代謝に関する研究」により「日本畜産学会賞」を受賞した業績が評価されました。また、人文社会科学部・川島佑介准教授、同学部・加藤崇徳講師、理工学研究科（工学野）・鶴野将年准教授の3名が、若手教員を対象とする奨励賞を受賞しました。

表彰式では、受賞者へ表彰状と記念品が贈呈された後、受賞者4名による講演が行われました。講演会には多くの参加者が来場し、各講演後は質疑応答の時間が設けられました。

三村信男学長は、「SDGsなどに代表されるように社会が期待している科学の役割は大きくなっている。今後も意欲的に研究に取り組んでいただけるよう期待している」と述べました。



表彰式後の記念撮影（左から加藤講師、豊田教授、三村学長、川島准教授、鶴野准教授）



優秀賞受賞者の豊田淳教授による講演の様子

◆ 本学工学科 1 年・森本さん、ビブリオバトルで全国大会出場

茨城県立図書館で開催された「全国大学ビブリオバトル茨城地区予選会」（11 月に開催）で、本学工学科 1 年の森本拓朗さんが優勝し、全国大会（首都決戦）に出場しました。

森本さんは『クマムシ博士の「最強生物」学講座—私が愛した生きものたち』（新潮社、2013 年）という本を紹介し、ユーモアを交えたプレゼンテーションが好評で、土曜アカデミーとして実施された学内予選とその後の茨城地区大会を勝ち抜きました。

もともと生物好きでもっとも興味のあるのがプラナリアだという森本さん。兵庫県出身ですが、寒い地域を好むプラナリアが生息しているという理由で関東の本学を選び、きれいな川で生物とのふれあいを楽しんでいるそうです。

12 月 22 日に東京都内で実施された「全国大学ビブリオバトル 2019～首都決戦～」では、残念ながら決勝進出はならなかったものの、すばらしいパフォーマンスにより、観覧者から大きな拍手が送られていました。



全国大学ビブリオバトルに出場した森本さん

◆ 理学部にて第 10 回高校生の科学研究発表会を開催

1月11日、水戸キャンパスにおいて本学理学部主催の「第10回高校生の科学研究発表会」が行われました。この発表会は、日本の科学技術の未来を担う次世代の人材育成をサポートすることを目的として開催。10年の節目となる今回の発表会では、茨城県内外21校の高校・中等教育学校から、合計81件（口頭発表44件・ポスター発表37件）もの申し込みがあり、当日は一般観覧を含め計279名が参加しました。

午前中は、2つの会場に分かれて口頭発表が行われました。各グループ口頭発表7分の持ち時間の中で研究内容を発表し、各グループ、今まで取り組んできた研究に対する熱意が伝わる発表を披露しました。発表後に設けられた質疑応答の時間では、理学部教員や他グループの参加者から出た感想や質問を受け、活発に意見交換する様子が見受けられました。午後のポスター発表では、本学人文社会科学部講義棟の1階・2階の講義室と廊下を全面に使いポスター作品が張り出されました。ポスターの前では、研究内容についてそれぞれ参加者同士が積極的に質問や意見交換を行う様子が数多く見られ、活気に満ちた発表の場となりました。

発表後は、表彰式が行われ、口頭発表・ポスター発表それぞれの優秀発表賞の受賞者を発表しました。今回披露された研究内容は、独創的な題材が多く、どのグループも研究に対する大きな熱意と努力が伝わってくるものでした。



参加者で満席となった会場

◆ 「茨城大学×明治東京恋伽 春草と大観の五浦青春展」 学生がアイデアを出し合い展示制作

本学では、ゲームやアニメ等のコンテンツで若い女性を中心に人気を博している「明治東京恋伽(めいじとうきょうれんか)」とのコラボレーション企画として、北茨城・五浦の観光振興や五浦で育まれた美術・文化への理解促進を図るキャンペーンを開催しました。

本学は、北茨城市にある五浦美術文化研究所を管理・運営し、日本の近代美術や内外の文化・歴史研究を行い、五浦の文化の発信と地域のブランディングに携わっています。この企画は、本学の職員がアニメ・ゲーム制作会社と連携をとり、準備を進めてきました。

今回は、同研究所及び本学水戸キャンパス図書館の2か所にて、「春草と大観の五浦青春展」と称してイベントを開催。五浦ゆかりの人物に関する文化財や作品と、「明治東京恋伽」のイラストパネルなどを組み合わせ、人気キャラクターのモチーフとなっている各人物の実像に触れられる内容となっています。

水戸キャンパス図書館で、1月11日～1月28日の期間開催した展覧会は、本学人文社会科学部・猪俣紀子准教授の授業の一環として、昨年4月より準備を開始し、受講生約10人が展示制作をおこないました。

制作に携わった学生らによると、貴重なアニメの原画や特別なイベントが発生した時にしか表示されないゲーム中のイラストを展示するなど、アニメ・ゲームファンを意識した工夫をし、お互いに意見やアイデアを出し合いながら制作を進めてきたとのこと。また、学生たち自身でツイッターやInstagramなどでイベントに関する情報を発信し、「アニメ・ゲームファンの方はもちろん、それ以外の方にも楽しんでいただける内容となっている」と述べました。



展示制作を担当した人文社会科学部の学生たち

◆ 市原市地層 GSSP 認定で「チバニアン」誕生 理・岡田教授ら安堵と喜びの記者会見

本学大学院理工学研究科（理学野）の岡田誠教授が代表を務める研究チームが進めていた、千葉県市原市の地層「千葉セクション」を GSSP（国際境界模式層断面とポイント）とする申請活動について、1月17日、韓国・釜山において開催された IUGS（国際地質科学連合）の理事会において審議および投票が行われ、提案が承認されました。

前期 - 中期更新世境界の GSSP 審査は、2017年6月に開始されました。4段階で行われる審査のうち、昨年11月には第3ステップとなる国際層序委員会（ICS）を通過し国際地質科学連合（IUGS）の理事投票結果を待つのみとなっていました。

今回の決定により、地質時代の中期更新世（約77万4千年前～約12万9千年前）が、「チバニアン（Chibanian）」と名付けられることとなりました。これは地質学や日本の科学史においても大きな出来事となったといえます。

同日、国立極地研究所（東京都立川市）で行われた記者会見に臨んだ岡田教授は、安堵と喜びの表情を浮かべ、「申請から2年半、本当にいろいろな事がありました。初めて日本の地名が地球史に刻まれることに感極まります」と語りました。



◆ 令和元年度後学期・学長と学生の懇談会を開催

1月24日、各学部1年次生を対象とした「学長と学生の懇談会」が本学水戸キャンパスにて開催されました。本学では、学生たちと学長との懇談会を定期的に行き、率直な意見交換を行っています。今回は三村信男学長の業務の都合により、太田寛行副学長が登壇し、約50人の学生と懇談しました。懇談会は、選択式の質問に対する学生たちの回答をリアルタイムでスクリーンに映しながら対話を進める形式です。

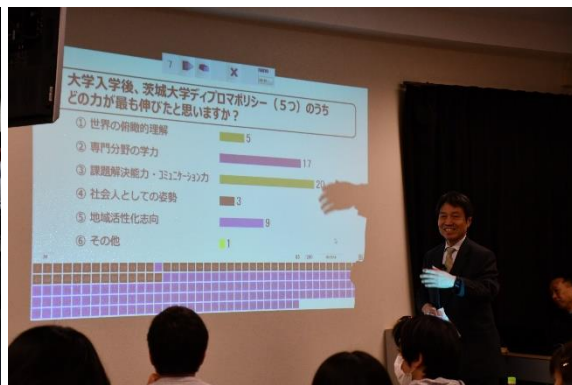
「学生生活は充実しているか？」の質問に関しては、参加者の大多数であるおよそ9割の学生が「満足」と回答しました。太田副学長は、「『満足』と多くの皆さんが感じているのは非常に嬉しいが、今後大学をより良くするためには、『不満』と感じている学生の意見を聞きたい。日頃感じていることを本音で言ってほしい」と学生たちに語りかけ、率直な意見を求めました。学生たちからは「学内における安定したWi-Fi通信環境の整備」、「教務情報ポータルシステムの仕様改善」さらに「英語の授業の質向上」など多岐に渡る要望・意見が出ました。

また、本学のディプロマ・ポリシーである5つの基盤学力について「現時点でどの力が一番伸びたか？」という質問に対しては、多くの学生が「課題解決力・コミュニケーション能力」と回答しました。研究活動やサークル活動を通じて、仲間とコミュニケーションを取りながら積極的に行動できるようになったという声が多くありました。

会の総括として太田副学長は、「学生と教職員は大学を共に作り上げていくパートナー。今回の皆さんの声をもとに、できるところから迅速に反映をさせていきたい」と語りました。



各学部1年次生約50名が集まった会場



学生のアンケート結果を紹介する太田寛行副学長